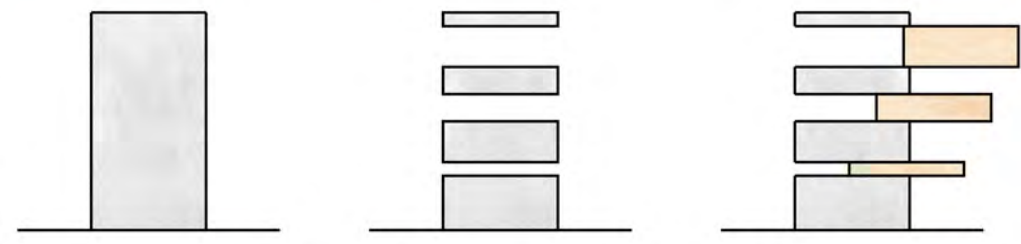


スキマに宿る生活

1. コンセプト

都市住宅は要塞になることを求められている。緑を離れ、空を忘れ、都市から逃げるように。しかし、大都市の中でも窮屈から解放された豊かな住環境を構築することはできる。スキマに住もう楽しさ。

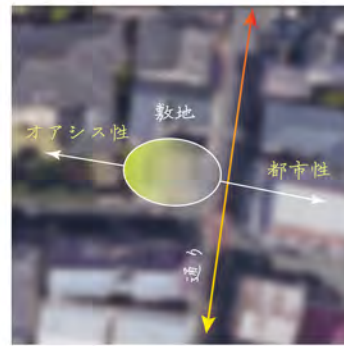
2. ダイアグラム



地面から空へと蒸発するように厚みが減る壁。そこに入り込む壁。この二つが内的性質と外的性質を持ち備え、相互に補完し合いながら住宅をつくる。つまり、オアシスを構成する壁と都市に投げ出される壁である。

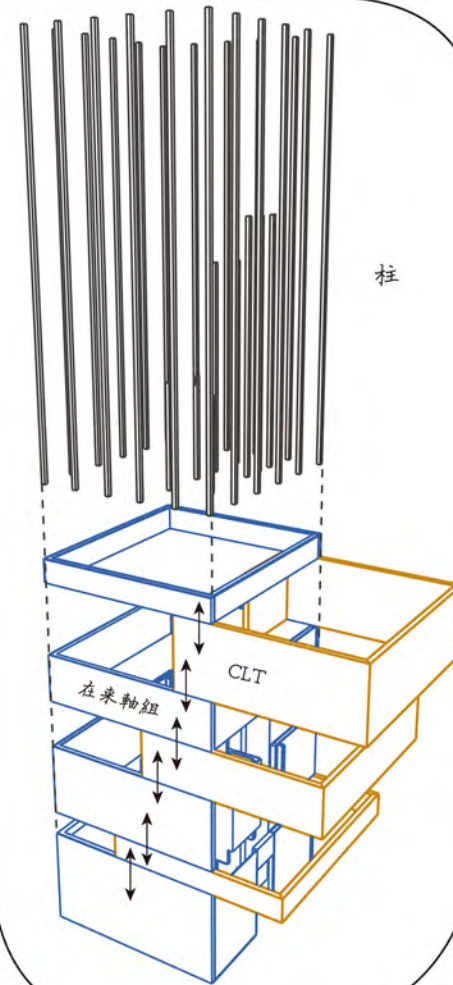
3. オアシスと都市

車通りの多い道に面した敷地。「喧噪な道側」と「静謐な反対側」で都市性とオアシス性を与えることで、周辺環境に最適化された空間がもたらされる。つまり都市に出る要素と都市から隠れる要素である。



4. ストラクチャー

在来軸組工法とCLT壁がずれながら積層されていく。それぞれのスキマがお互いを抑え込むことでこの原理によって柱への垂直加重が軽減されている。



5. スキマを作る温かい器

予期せぬところに楽しさが湧き出るものだ。この住宅では二つの構法の違いが生むスキマによって、空間の使い方に人間の遊び心、あるいは心の余裕が宿る。

湯舟に現れる棚、上半身だけの扉、キッチンを拡張させる棚、登るにつれて光が強くなっていく階段、空を見上げて初めて分かる中庭の領域性。そういった些細な、だけど人間にとって大切な行為を受け入れてくれる温かい器。それが、ここにはある。

